

「土砂災害から町を守る」

山形県 真室川町立真室川小学校 6年 ^{たかはし}高橋 きら

1975 年8月6日、私の住む山形県最上郡真室川町で、未明からの大雨により、たくさんの所で増水、ついには下流の堤防が決かいし、真室川町中心部が水ぼつしました。

私の町では、この悲しい出来事をいつまでも語りついでいくために、「8・6水害」と呼び、毎年地域の消防団と住民による防災訓練が行われています。

「8・6水害」が発生した当時、私の祖母は中学生でした。その祖母からは、「土石流や鉄砲水が発生して家が流され、駅に止まっていた電車は脱線し、人は土砂にうまって亡くなった。」

と聞きました。同じくそのころ高校生で、下流に家があった祖父は、

「橋の土台が流され、電車のレールの上を人がはっていた。」

と思い出しながら話してくれました。祖父母からそのような話を聞いて、私は悲しくなりました。いつも生活している町が水と土で流されてしまったなんて、今では想像が付きません。亡くなった人は、土砂に飲み込まれて、とても苦しただろうと自然のおそろしさを感じて胸がいっぱいになり、少しでも自然災害が起こらなくなるかと思いました。

当時は、今のように進んだ技術は無く、立派なダムや堤防もあまり無かったため、水害が起きてしまったことを知りました。ダムがないと、ふった雨が上流から土や砂をまきこみ下流へ水かさを増し、一気に流れ町を飲み込んでしまいます。この流れを止め、調節するのがダムで、堤防は、強い水の流れから、町を守るために作られるということを学校の社会の授業や祖父の話を聞いて知りました。

今、私の祖父と母はダムや堤防を作る建設会社に勤めています。日々、ダムや堤防を作ったり、どこかで水害が起きた時には救助に向かったりしています。ある時、祖父からダムや堤防を作る際の苦労話を聞きました。ダムは、山をけずった後の作業が重要だそうです。山の地面とコンクリートが合わさる所から、水がしみ出ないようにする作業がとても難しいそうです。同じく堤防も、地面と丘から絶対に水がしみ出ないようにしなければならぬそうです。母は、

「何十年もかけて、新しく進んだダム作りや、流されることのない強い堤防作りのために作業員さん達や河川に関わるたくさんの人達が、毎日努力しているんだよ。」

と教えてくれました。時には、作りかけの堤防が雨によって一晩で流されてしまい、また一から作り直さなければならない事もあるそうです。それでも何度もくり返し努力を続け、少しでも多くの命を守るために自然と戦っているのだと私は思いました。

何気なく毎日生活をしている中でも、たくさんの人達が、土砂災害を防ぐためにダムや堤防を作り、私達を守ってくれている事を考えると、本当にありがたいなと思います。

私の住んでいる家の近くには、ホテルの飛んでいるきれいな川や魚が多く住んでいる川があり、夏になると、魚捕まえや川遊びをすることができます。私達人間も、水が無くては生きていくことができません。そして、その水は、自然が作り出す雨によってできています。しかし、最近テレビのニュースを見ていると、日本各地で集中ごう雨や台風によって、土砂災害が多く発生しているような気がします。自然は、私達の命を守る大切な恵みであり、時には命をうばってしまうものでもあると、心に強く思いました。

「8・6水害」の経験を生かしたダム作りや堤防作り。そして、町に住む人達の災害への備え。たくさんの人達の日々の努力と苦労があるからこそ、土砂災害や水害のない今の幸せな毎日があるということ、これからも心に刻んで生活していきたいと思えます。